

表-1 個別の指導計画作成の手順

指導計画の段階		細目	
第1段階	実態把握 ① 個々の児童生徒の実態（障害の状態，発達や経験の程度，生育歴等）を的確に把握する。	a.自立活動の6区分からとらえた把握	
		b.現在の生活や進路に関する希望の把握	
		c.学びの履歴の把握	
		d.3年後にめざす姿を想定	
第2段階	課題の抽出 ② 実態把握に基づいて指導すべき課題を抽出し，課題相互の関連を整理する。	e.子どもの出来ること、出来ないこと、もう少しで出来ること、援助があれば出来ることをカードに書きだす	
		f.学びの履歴から選別する	
		g.めざす姿に関連するものを残す（複数）	
第3段階	課題関連図 課題相互の関連を整理する。	h.複数の課題相互の関連を、「因果」「相関」等に区別して⇒を書き、そう判断した理由も記す	
		i.課題の関連から、「この課題は多くの課題と関連」「これは複数の課題の原因」など考察	
		j.その年度を中心課題を抽出	
		k.これらのプロセスを複数の教師で検討	
第4段階	指導仮説 ③ 個々の実態に即した指導目標を明確に設定する。	l.課題関連図に基づき、課題相互の関連を文章化し、実態と背景を解釈する	
		m.この考察で、指導目標や指導内容を設定する根拠を明らかにする	
		n.3年後の姿に向けて、なぜこの指導目標なのか理由を書き、	
		o.<年度の指導の方向性>中心課題を達成するとどのような変容が期待できるかを書く	
第5段階	年間指導目標の設定	p.教師として大切にすること、手立てを考える方向性を書く	
		q.目標は、具体的な行動と、手立てを具体的に記述する	
第6段階	指導内容の設定 ④ 6区分27項目の内容の中から、個々の指導目標を達成するために必要な項目を選定する。	r. 6区分27項目から目標達成に必要なと考えられる項目を選定	
		r-1.指導目標に関連する（複数の）項目を選定	
	r-2.各課題に関する区分の項目が選定されているかの確認が必要 ※		
	※:理由を理解しないと形骸化の恐れあり	⑤ 選定した項目を相互に関連付けて具体的な指導内容を設定する。	s.具体的な指導内容の設定（教材名、活動名ではなくて、教材や活動で具体的ななどの行動を引き出すか書く）
			t.中心課題との関連を吟味（すべてではない）
			t-1.1つの項目だけではだめ、複数 ※
t-2.全区分に関連する場合は、絞り込む			
⑥他の領域との関連を図り、指導上留意すべき点を明確にする。			

①~⑥は解説編 p.103

第2章1節実態把握から指導目標・内容の設定に至る手続き「自立活動の理念と実践」pp.48-58.